

事業所名

こども発達支援センターのぞみ 放課後等デイサービス

支援プログラム

作成日

令和6年

10月

31日

| | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|--|---------------|-----|----------|---------------|-----|---|----|------------------------------------|--|
| 事業所理念 | 子どもたちやその家族が、地域で楽しく安心して生活していけるために子育ての応援をします。子どもたちをとりまく地域の応援団を増やしていく、あたたかい地域づくりに貢献します。 | | | | | | | | | | |
| 支援方針 | 子どもたちの「できる!」「楽しい!」を見つけ、心も体も満足する活動を提供します。その中で自分のことをよく理解し、自分なりに周囲と関わっていける経験を積み重ね、自己実現していけるよう支援していきます。 | | | | | | | | | | |
| 営業時間 | 平日 土曜・長期 | 9 8 | 時 00 30 | 分から | 18 17 | 時 00 30 | 分まで | 送迎実施の有無 | あり | (帰りは保護者連携のため、出来るだけ保護者迎えをお願いしています。) | |
| 支 援 内 容 | | | | | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | プレイルームや施設周辺の自然環境でしっかり身体を使った活動を行うことで、気分が晴れ晴れとしたり、心が安定する経験を通して、心と身体の健康の維持を支援しています。また、本人にとって適している活動、方法などを一緒に考え、安定した生活様式や取り組み方法を提案していきます。避難訓練を定期的に行う中で、それぞれの子どもに応じた防災学習を行っています。 | | | | | | | | | |
| | 運動・感覚 | 遊具での活動や野外活動、道具操作のある活動を通して、身体の使い方や道具の使い方を学べるよう支援しています。感覚ニーズをしっかり満たす活動を行い、心身の健康を図ります。 | | | | | | | | | |
| | 認知・行動 | 遊びの中で、本人にとって分かりやすい方法で情報を提示したり、促しによって本人が気付きにくい部分に気付けるよう支援し、多様な認知の発達を図ります。こどもの行動について、多面的に評価し、本人支援、周囲の支援者の理解、環境への配慮を通して、本人なりに適切に関われるよう支援しています。 | | | | | | | | | |
| | 言語 コミュニケーション | 本人にとって分かりやすい情報の提示の仕方や利用できる表出方法などを吟味し、集団や本人のいる環境の中での自己実現を図ります。宿題や学校、家庭での取り組みなどから、学習に関して本人に適した指導方法などを検討し、提案します。 | | | | | | | | | |
| | 人間関係 社会性 | しっかり身体を動かした後は落ち着いて活動できる、心が不安定になったときこうすれば解決できたり落ち着くことができる、自分にとって使いやすい道具を使う、関わりやすい方法で関わる、理解しやすい方法で情報を得るなど「できる」「満たされる」経験を通して、自身に対するポジティブな自己理解を図ります。支援者やグループの友達との心地よい関わりを通して、社会性を育みます。 | | | | | | | | | |
| 家族支援 | 必要に応じて家庭訪問や面談を行い、子どもや家庭の相談を受けています。 | | | | 移行支援 | | | 中学校や高校など移行先との連携を行い、スムーズに移行できるよう支援しています。 | | | |
| 地域支援・地域連携 | 学校や医療などの関係機関と連携をとり、事業所以外の生活の場で子どもが安心して生活できるよう支援しています。また、子どもに必要な支援の提案を関係者に行うなど、関わる人が皆子どもの応援団となれるよう連携を図っています。 | | | | 職員の質の向上 | | | 定期的に職員研修を行ったり、多職種のチームで情報を共有し合いながら日々の支援に当たっています。 | | | |
| 主な行事等 | クッキングやピザ窯で焼き芋、夏はプールなどを行っています。 | | | | | | | | | | |